

課題解決型研究プログラム 資源循環研究プログラム

委員会の主要意見

現状についての評価・質問等

- 人口減少や土地利用など社会状況の変化も含めた国環研ならではの広い視野で物質循環に関する総合的な研究が実施されているが、焦点が多岐に渡っているために全体像が分かりにくい。
- アジア地域を対象にした実証的研究は国環研としての独自性が発揮されており、国際貢献としても評価できる。
- 課題解決に向けて全体的にやや足踏みしている印象を受ける。昨年度からどの部分が進展したのかを明示されたい。
- プロジェクト3では廃棄物処理について実践と手法の体系化の両方が行われていることが示されており、有意義である。

今後への期待など

- 広範な研究対象をすべてカバーするのではなく、社会的な要請や研究成果の社会実装による効果を考慮して研究の優先順位をつけることも考えられる。
- プロジェクト2で中国の再生資源禁輸措置の影響分析の報告があったが、国内循環を想定した技術システムや社会システムとしての時機を得た取組とするため、研究プログラムとしての統合分析に期待する。

主要意見に対する国環研の考え方

- ①多様な研究対象に対して、限られたマンパワーとリソースで課題を取捨選択して実施しているのが実情ですが、一方で研究プログラムとしてのまとまりを持ち、かつ全体像を的確に表現できるようにしていきたいと思えます。
- ②現地の事情に適合した技術上の解決策を提示することで、今後もアジア地域における廃棄物管理や資源循環のための技術システムのあり方を提示できればと考えております。
- ③今後は年度ごとに進捗が明確になるように記載にも工夫したいと思えます。
- ④技術開発については実装時の効果やインパクトをある程度見込んで、メンバーの強みを生かしつつ、小規模施設やアジア途上国など民間だけでは難しい課題に挑んでおりますが、今後、課題の優先順位の決定にはさらに議論を深めたいと存じます。
- ⑤中国禁輸の影響は今回トピック的なご紹介とさせて頂きましたが、ご指摘の通り国内循環の取組を進めるよい機会でもありますので、研究プログラムとしての統合分析といえるまとめができるよう努めたいと思えます。